



制作委員会には企画段階から多くの市民が参加。高校生2人が助監督として撮影に参加するなど、住民たちが企画・制作に携わった

1 2 地域住民が緊張しながらも、楽しみながらエキストラとして出演。3 出演者やスタッフの食事を作る地域の女性たち。4 鐘江監督(右から2番目)らプロのスタッフが中心となり、制作が進められた。5 完成披露試写会のトークショーに出席した主演の稲森誠さん(右)さんと小林涼子さん。稲森さんは「この映画は都会の人たちにこそ見てもらいたい」と訴えた

これからのために 地域住民が立ち上がる

地域の力を結集して制作

豊里地域は、鉄道と三陸縦貫自動車道が通り交通の便が良く、若い世代を含めた移住者が増加し、交流人口が増えています。そのような状況の中、同協議会では「今は交流人口が増えているが、今後は独居者の増加による孤立や孤独死が増える」と将来的な課題を分析。誰かに頼るのではなく、住民たち自らが支援の必要な人を見守り、支え合う社会を構築していく必要があると考えました。

同協議会では、地域住民が主体となり、社会福祉協議会、地域包括支援センター、民生委員や消防署など、多くの関係機関と連携して映画の制作委員会(佐々木豊委員長)を昨年4月に設立。企画の段階から住民に参加してほしいと声を掛け、総勢100人以上の人が関わりました。裏方やエキストラ出演のほか、撮影中の食事作りを地域の女性が担当。米や野菜は各家庭から持ち寄り、地元の企業「ピッ



佐々木茂さん(66)
(豊里町川前)

グ夢ファーム」からは1頭分の豚肉が提供されるなど、地域を挙げた取り組みに発展しました。

映画制作を手伝ってほしいと声を掛けられた佐々木茂さんは「この年齢で新しいことを経験する機会は少ないですし、興味もありました。普段から日曜大工をしているので、何か役に立てればと思います」と参加したきっかけを話します。

佐々木さんは、撮影で使う家の改装など、裏方として活躍し、映画にも出演。「たった2行くらいのせりふでしたが、最初は緊張で頭が真っ白になってしまいました。貴重な経験ができて良かった」と頬を緩めます。

自分たちで作った映画 だからこそ自分たちで広める

佐々木さんは「私の親の世代は、農作業と一緒にしたり、隣近所にお茶飲みに行ったりしていたので、近所の家へ上がることもありました。近所の家へ上がることもありません。孤独死は、全国共通の課題で身近な問題でもあるので、多くの人に見てもらいたい、孤立する人をなくせるようなきっかけになってほしいです。今後は、自分たちの手でこの映画を広めていきたいです」と誓いを新たにしました。

1月19日に開かれた完成披露試写会を皮切りに、市内だけでなく、気仙沼市をはじめ市外でも追加公演が企画されています。また、大阪市でも上映するなど、豊里地域で生まれた映画は、全国にも徐々に広がりを見せています。

追加公演

日時: 3月31日(日)
10:00, 13:00, 19:00
場所: 豊里公民館
豊里公民館
☎0225(76)2237

日時: 4月12日(金)・13日(土)
12:18:30
13日: 10:30, 13:30
場所: 登米祝祭劇場
登米祝祭劇場
☎0220(22)0111
※両公演とも入場無料・申込不要



撮影のため、庭に土を敷き、家を改装するなど、裏方として参加していた佐々木さんも、自転車屋の店主として出演



伊達光子さん(73)
(豊里町長根)

大病を思いふさがちに これからは少しずつ前向きに生きたい——

Interview

私自身大病を思い落ち込んでいたので、主人公の気持ちの変化がとても印象的でした。以前までの私は、歌が好きだったので、コーラスをしたり、積極的にボランティア活動に参加したりしていました。病気になってからは不安な日々を過ごし、コーラスをやめ、ボランティアにも参加しなくなりました。今回の映画を見て、いつまでも閉じこもってはいだめだと感じました。これからは、公民館で開催している歌声喫茶に参加してみようと思います。この映画は、私を少しずつ前向きに生きていこうと勇気づけてくれました。